



[Teeta]



「テエタ」

「テエタ」アイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



恵庭市西島松5遺跡・墓に副葬された櫛や玉（縄文時代後期）

- 平成 15 年度調査遺跡2
- 平成 15 年度調査遺跡の概要2
- 年代測定値への疑問—弥生時代の開始年代に関連して—7
- 表紙解説7
- 人事異動8

○平成 15 年度調査遺跡

委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	摘要	委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	摘要	
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道 337 号千歳市新千歳空港関連工事	オルイカ1	千歳市	1,600	縄文時代後・晩期の遺物包含地	北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	三次郎川右岸	森町	2,150	縄文時代中期～後期の集落跡
			キウス 5	千歳市	5,000	縄文時代前・中・後・晩期の遺物包含地			三次郎川左岸	森町	1,090	縄文時代中期～後期の集落跡
			チブニー2	上磯町	2,000	縄文時代早・中・後・晩期、縄文時代の遺物包含地			石倉 5	森町	962	縄文時代後期の集落跡
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	館野	上磯町	8,300	縄文時代中期～後期の遺物包含地			石倉 3	森町	3,670	縄文時代中期～後期の集落跡
			大岩 5	鹿部町	1,800	縄文時代後期の遺物包含地			石倉 2	森町	2,324	縄文時代中期～晩期の集落跡
	室蘭開発建設部	日高自動車道厚真～門別工事	宮戸 4	鷗川町	3,800	縄文時代早・前期～中期の遺物包含地			石倉 1	森町	2,000	縄文時代中期～後期の集落跡
			米原 4	鷗川町	600	縄文時代早・前期～中期の遺物包含地			本茅部 1	森町	498	縄文時代前期・中期の集落跡
	釧路開発建設部	一般国道 36 号登別市登別市街拡幅工事	ホニアヨ口4	白老町	284	縄文時代早期・中期の集落跡			上台 2	森町	6,690	縄文時代中期～後期の集落跡
			穂香登穴群	根室市	3,440	縄文時代の集落跡			上台 1	森町	5,210	縄文時代後期の集落跡
	網走開発建設部	一般国道 44 号根室市根室道路工事	中島	丸瀬布町	1,900	縄文時代中期～後期の遺物包含地			森川 4	森町	810	縄文時代中期～後期の集落跡
旧白滝 8			白滝村	1,040	森川 3		森町	2,392	縄文時代前期の集落跡			
石狩川開発建設部	石狩川改修対雁築堤工事	旧白滝 5	白滝村	6,600	縄文時代中期～後期の遺物包含地	濁川左岸ほか	森町	整理作業				
		白滝登穴群	白滝村	整理作業	日本道路公団計		27,796					
国土交通省北海道開発局計				38,564								
						札幌土木現業所	北海道支社	北海道計				
						柏木川13	恵庭市	1,463	縄文時代中期～晩期の集落跡			
						西島松 5	恵庭市	2,597	縄文時代早期～縄文時代の集落跡、墓地			
						西島松 3	恵庭市	1,500	縄文時代中期～後期の集落跡			
						西島松5ほか	恵庭市	整理作業	縄文時代早期～縄文時代の集落跡、墓地			
						北海道計		5,560				
						合計		71,920				

2003.8.25 現在

○平成 15 年度調査遺跡の概要

森町 上台1遺跡

遺跡は、森町中心部から南へ約 2 km、森川の支流 2 本に東西を挟まれた火砕流台地上に位置します。南西側の山地から続く台地の先端部にあたり、標高は 82 ～ 90 m です。緩斜面上には土石流跡と考えられる自然攪乱層が平均 50cm 堆積しており、主な遺物包含層は、その土石流直下の黒色土層になります。

縄文時代前期後葉、中期中葉から後期、晩期中葉から後葉にかけての遺物が主に両側の支流に向かった緩斜面において多く出土します。東側の支流に面した標高の低い地点では、河川堆積の影響で遺物包含層である黒色土が 2 枚に分かれ、上から縄文時代晩期、下から縄文時代中期と後期の遺物が出土しています。6 月末現在、遺構はピット 3 基、石組み炉 1 カ所、焼土 1 カ所が検出されています。



土坑検出状況

森町 石倉2遺跡

遺跡は、森町市街地から北西へ約 10km、山地から噴火湾に迫る 2 つの細い尾根状の火砕流台地上にあります。遺跡の標高は 70 m ほどですが、急崖で沢との比高が大きくなっています。段丘上は、大型のフラスコ状ピット (写真) 3 基、Tピット (落とし穴) 10 基、土坑 8 基、焼土 2 カ所が見つかりました。各遺構の時期は明確ではありませんが、周辺からは縄文時代中期後半～後期初頭と晩期の遺物が出土しています。段丘縁辺部では、土器がまとまって出土する地点がやや多く見られます。

もう一方の尾根では、段丘の先端部から竪穴住居跡が見つかり始めています。中には床面に焼土の粒や炭化物がまとまって検出されるものがあります。遺構やその周辺からは、縄文時代中期後半～後期初頭の遺物が出土しています。



大型のフラスコ状ピット断面



包含層調査状況

しらたき きゅうしらたき 白滝村 旧白滝5遺跡

遺跡は、白滝市街の北東3.5kmほどの湧別川と幌加沢川の合流点の河岸段丘上にあります。幌加沢川は黒曜石が採れる赤石山に通じているため、遺跡内では豊富な黒曜石を使った石器製作が盛んに行われています。段丘面は上下2段に分かれ、それぞれから時期の異なる石器群が出土しました。標高390m前後の上段は、赤石山に続く尾根の末端部にあたり、後期旧石器時代後半期の札滑型や峠下型細石刃核が細石刃、石刃核、尖頭器、舟底形石器、サイコロ状の石核と共に出土しています。標高360～365mの下段では、5cm前後の小型で柳葉形の尖頭器を含む石器群がみられます。



竪穴住居跡調査状況

ねむろ ほにおいたてあな 根室市 穂香竪穴群

穂香竪穴群は、根室市中心部から南西へ約5km、根室湾に面した台地上にあります。根室市教育委員会が行った調査で竪穴の凹みは、台地上とホニオイ川の支流に面した南側斜面部にかけて62カ所確認されていました。そのうち30数個が調査の対象となり、昨年度までの2年間で擦文時代の終わり頃の住居跡26軒、縄文時代の中期から後期にかけての時期の住居跡11軒や土坑22基、盛土遺構10カ所などを調査してきました。今年度は凹みの集中箇所から離れ、台地西側部分の南斜面と、支流が流れる湿地へと続く斜面下の平坦面を調査しています。低位の平坦面から検出された縄文時代中期の竪穴住居跡1軒と土坑1基、台地上の盛土遺構1カ所を調査中です。遺物は全体で約2,000点出土しており、ほとんどが縄文時代の遺物です。擦文時代の遺物は極めて少なく、遺構も検出されていません。



包含層調査状況

もりほんかやべ 森町 本茅部1遺跡

遺跡は、森町の市街地から8kmほど八雲町寄りに位置します。噴火湾に面する標高85m前後の火砕流台地上にあり、晴れた日には南西方向に駒ヶ岳の雄姿を望むことができます。平成14年度に一部調査を行っており、今年度の調査区はそれに続く西側の部分で、発見された遺構は焼土跡1カ所です。遺物は多くはありませんが、縄文時代晩期中葉に属する一個体分に相当する壺形土器の破片が風倒木痕のくぼみからまともに出て出土しています。ほかに中期前半サイベ沢Ⅶ式のものもわずかにありました。石器の中では蛇紋岩製の石斧やその破片が目立ちます。調査は6月6日に終了しました。

鹿部町 大岩5遺跡

遺跡は、鹿部町の市街地から南東へ約3 km、常路川の左岸段丘上にあります。

国道278号線の建設に伴い、鹿部町では初めての本格的な発掘調査を行いました。鹿部町は秀麗なる駒ヶ岳の東南に位置しているため、幾度かの噴火による火山灰が厚く堆積しており、特に大岩から常路にかけて山地の斜面を広く覆っています。このため、遺跡の保存状態はとても良好です。

調査の結果、縄文時代早期から中期、続縄文時代の遺物が出土しています。土器は縄文時代中期と続縄文時代のものが多く、石器では縄文時代早期のつまみ付きナイフや石斧等がみられます。



包含層調査状況

江別市 対雁2遺跡

遺跡は、JR江別駅の北西約4 kmの石狩川左岸、世田豊平川との合流地点よりも上流側の河川敷緑地内にあります。今年で5年目の調査になります。これまでに縄文晩期後葉～続縄文(約2,500～1,700年前)にかけての土坑・焼土等の遺構、土器・石器等の遺物が多く確認されています。この遺跡は狩猟や漁労をする際に一時的に利用した場所で、繰り返し使用した可能性があります。

写真は今年度確認された土坑のひとつで、直径40cmほどの円形の穴から、焼けた多量の礫やその破片が検出されました。土坑の壁には焼土や炭化物があることからこの中で火を焚いて作業を行っていたものと考えられます。



土坑遺物出土状況

恵庭市 柏木川13遺跡

遺跡は、JR千歳線恵み野駅の西方1.5km、柏木川左岸にあり、標高30m低位河岸段丘上に位置します。縄文時代早期から擦文文化期にわたり、川岸に沿って見つかりました。縄文時代早期(約8,000年前)と擦文時代(約1,200～1,100年前)には竪穴住居がありましたので、小集落を成していたと思われます。

縄文時代早期の竪穴住居跡からは、平底貝殻条痕土器・ヒスイ部分を含む蛇紋岩製品・蛇紋岩製石斧などが出土しました。恵庭市内ではこの時期の竪穴住居は初めての検出例となります。

擦文時代の竪穴住居跡は、全てカマドが壊されて屋根・柱も燃えていました。火をつける行為は、住居を捨てるお祭りに伴って行われたものではないかと考えられます。



竪穴住居跡完掘状況(縄文時代早期)



土坑墓遺物出土状況（縄文時代後期）

恵庭市 西島松5遺跡

遺跡は、恵庭市の西側、柏木川とキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約 25 m の低い台地上に位置します。調査は平成 12 年度から継続しており、4 年目になります。遺跡からは縄文時代早期から擦文時代にかけての遺構・遺物が検出されています。今年、縄文時代後期末の土坑墓が多数検出され、墓域を形成していることもわかりました。墓からは漆塗りの櫛や腕輪、玉類などの装飾品が出土しています。（表紙及び表紙説明参照）



竪穴住居跡調査状況（縄文時代後期）

上磯町 館野遺跡

遺跡は、上磯町の市街地から南西約 5 km、下町沢川の右岸、標高約 55m の海岸段丘上に位置し、丘陵上から南東には函館湾が望めます。今回の調査では主として縄文時代中期末から後期にかけての遺構、遺物が出土しています。発掘調査の途中ですが、富川土塁跡に関わる地形と、傾斜地を造成した平坦面上に構築された建物跡、柵列、竪穴住居跡 10 軒・土坑 13 基、焼土遺構 2 基などが検出されています。



畝状遺構検出状況

森町 上台2遺跡

遺跡は、森町市街地から南側に約 2 km の火砕流台地上、標高 90 m から 105 m の緩い斜面に位置します。6 月までの調査により、近世と考えられる畑の跡、畝状遺構が検出されています。厚い火山灰層（駒ヶ岳 d テフラ：1640 年降下）の下、5～10cm 程の黒色土を掘り下げると白っぽい火山灰（B-Tm 白頭山 小牧テフラ 10 世紀中頃降下）が厚さ 5cm 前後で確認できます。畑の畝を立てるときに出来た畝間は、この火山灰を斜面に沿って溝状に掘り込んでいます。上から見ると、地面が白黒の縞模様に見えます。この遺構は、調査区東側の未確認部分を除いてほぼ全域に広がりを見せ、更に西側へと広範囲に続くものとみられます。

もり いしくら 森町 石倉1遺跡

遺跡は、森町市街地から北西側に約9 km、海岸から約700m 内陸の台地上に立地しています。北東向きの緩斜面で標高は38～43 mです。台地は濁川の支流である無名沢に開析されており、遺跡はその沢に面しています。その無名沢寄りの平坦部と、調査区西側の比較的急な斜面に遺物が集中して出土しています。西側斜面の遺物についてはその上の台地上から廃棄されたものと考えています。出土している遺物は縄文時代後期前葉の土器が主体です。目立った遺構としては、覆土の上部に人頭大の礫が3個詰まった土坑が1基検出されました。去年から一昨年にかけて当センターが調査した濁川左岸遺跡は約200 m南東に位置します。



礫が詰まった土坑の調査

もり いしくら 森町 石倉3遺跡

遺跡は、八雲町との町境より4 kmほど森町側、石倉川左岸の海岸段丘の標高65～72mにある。東南方向には、駒ヶ岳が望めます。

調査範囲は、北西方向に傾斜する緩斜面、石倉川に面する急斜面とその下のテラス部分にわかれます。

最も標高の高い段丘南東側部で縄文時代後期初頭の配石遺構を検出しました。配石は重さ10～30 kgの礫が組み合わさっていて、その下から直径1 mほどのピット1基が検出されました。ほかに、緩斜面西側でTピットが1基検出されています。

余市式土器をはじめ、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、メノウのフレイク、礫など約9,000点の遺物が出土しています。つぶて様の礫が多いのが注目されます。



配石遺構調査遠景

ちとせ 千歳市 チブニー2遺跡

遺跡は、千歳市街から北東方向に約8 km、チブニー川の右岸にあります。

樽前a降下軽石（1739年）の下から、アイヌ文化期の家（チセ）の跡3軒と擦文時代の土坑墓1基、焼土等が見つかりました。チセはいずれも炉があり、周辺からは柱穴が検出されました。チセの1軒からは中国で作られた青磁碗の破片や鉄斧等が出ています。また擦文時代の墓からは、墓に供献された擦文土器と鍬先や刀子等の鉄製品が出ています。

樽前c降下軽石（約2,300年前降下）の下からは縄文時代中期の竪穴住居跡6軒と土坑、Tピットや焼土等が見つかりました。



土坑墓遺物検出状況（擦文時代）

○年代測定値への疑問—弥生時代の開始年代に関連して—

5月に国立歴史民俗博物館の方々（春成秀爾教授ほか）により、弥生時代の開始年代が500年程度早まるという問題提起がありました。この発表は、新聞、テレビなどで大々的に報道されたことから、以後、周囲の人々から、どのように理解すればよいのでしょうかと質問を受けることが多いのです。この話題に関して、当埋蔵文化財センターが発掘を継続している江別市の対雁2遺跡の調査例をもとに、「年代測定値への疑問」として私の考えのあらましを述べておきたいと思います。

対雁（ついしかり）2遺跡は、石狩川の河川改修に先立つ調査として、1999年春から発掘が始まりました。今年で5年目の調査であり、調査報告書がすでに4冊刊行されています。遺跡は標高10m足らずに立地し、縄文時代晩期後葉～続縄文時代初頭の多量の遺物、多数の焼土がみつかっています。

4冊の調査報告書には、年代測定資料が合計47点示されています。このうち縄文時代晩期後葉の土器の側（かたわら）から得られたオニグルミ、ヤマブドウ、木炭などを資料とした測定値は、2410年前～2560年前にほぼまとまっています。ところが同じ時期の土器に付着している炭化物を測定資料とした2点については、2810年前、2920年前という数値でした。これらの測定資料は、すべて標高7～8mから出土したものです。

2000年度の発掘では、標高4m付近まで掘り下げました。この深く掘ったところから得られたオニグルミや埋もれ木を使った年代測定値は2810年前～2930年前に集中しています。このように標高8m付近では2500年前、標高4m付近では2900年前という年代測定値を考慮して、約400年間で4m程の土砂の堆積が進んだものと解釈しました。したがって、土器に付着した炭化物から得られた年代測定値の解釈は、別途検討が必要になると判断したのです。

以上のような測定値群から得られる結論としては、「対雁2遺跡の場合、土器に付着した炭化物の年代測定値は2割ほど古く出ています。このような事例を参考にすると、今回の国立歴史民俗博物館からの新説提案には賛同してよいものか、ちゅうちょせざるをえまざるとなります。なお、私見としていうならば、弥生時代の開始年代に関しては従来の説でほぼ安定するのではないかと考えております。

（第2調査部長 西田 茂）

*年代測定結果については、それぞれの報告書に掲載してあるので、ここでは簡略化した表現を使用しました。

引用、参考文献

北埋調報147『江別市対雁2遺跡(1)』2000年3月。 北埋調報160『江別市対雁2遺跡(2)』2001年3月。
北埋調報177『江別市対雁2遺跡(3)』2002年3月。 北埋調報190『江別市対雁2遺跡(4)』2003年3月。

表紙解説 < 西島松5遺跡・墓に副葬された櫛や玉（縄文時代後期） >

この土坑は、縄文時代後期後葉の墓で、遺跡からは同時期の墓が100基以上確認されています。398号土坑は直径約120cmの円形で、やや袋状に掘られた穴が約50cmの深さで残っていました。

覆土上部からは注口土器1点の他、塗膜状の赤色漆片が出土しています。覆土下位には炭化材の薄い層が入っており、その上からは透かし入の赤色漆塗り櫛や約100点の玉類が出土しています。櫛の側からは人の歯も出土しており、おおむね西側頭位で埋葬されていたようです。

